

(別表3-3)平成14年度から平成27年度における経年分析結果(水質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↓	↓	↓	—
[2]	HCB	↓	—	↓	┘
[11]	HCH 類				
	[11-1] α-HCH	↓	—	—	↓
	[11-2] β-HCH	↓	—	↓	↓
	[11-3] γ-HCH(別名:リンデン)	↓	↓	↓	↓
	[11-4] δ-HCH	—*	—	—	—*

(注1)経年分析は、単回帰分析等の統計的手法を用いて実施した(以下の表においても同様)。

(注2)表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する(以下の表においても同様)。

- ↓ : 経年的な減少傾向が統計的に有意と判定されたもの
- ┘ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが示唆されたもの
- : 経年的な増加・減少傾向及び調査期間前期と後期との差について確認されないもの
- ↓ : 検出数が少ないものの、検出率が減少しており、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- X : 「不検出値(nd)が半数を超えて存在する年度がある」又は「測定地点数が少ない」ために本分析法により経年分析を行うことが妥当ではないと判断されたもの
- \* : ブートストラップ法において調査期間前期と後期との差が確認されないもの

(別表3-4)平成14年度から平成27年度における経年分析結果(底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↓	↓	—	—
[2]	HCB	—	—	—	—
[11]	HCH 類				
	[11-1] α-HCH	—	—	—	—
	[11-2] β-HCH	—	—	↓	—
	[11-3] γ-HCH(別名:リンデン)	—	—	—	—
	[11-4] δ-HCH	—	—	—	—

(別表3-5)平成14年度から平成27年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物		大気
		貝類	魚類	温暖期
[1]	総 PCB	↓	—	↓
[2]	HCB	—	—	—
[6]	DDT 類			
	[6-1] <i>p,p'</i> -DDT	(対象外)	(対象外)	↓
	[6-2] <i>p,p'</i> -DDE	(対象外)	(対象外)	↓
	[6-3] <i>p,p'</i> -DDD	(対象外)	(対象外)	↓
	[6-4] <i>o,p'</i> -DDT	(対象外)	(対象外)	↓
	[6-5] <i>o,p'</i> -DDE	(対象外)	(対象外)	↓
	[6-6] <i>o,p'</i> -DDD	(対象外)	(対象外)	┘
[8]	ヘブタクロル類			
	[8-1] ヘブタクロル	X	↓	↓
	[8-2] <i>cis</i> -ヘブタクロルエポキシド	—	—	↓
	[8-3] <i>trans</i> -ヘブタクロルエポキシド	X	X	X
[9]	トキサフェン類			
	[9-1] Parlar-26	—*	—*	(対象外)
	[9-2] Parlar-50	—*	—*	(対象外)
	[9-3] Parlar-62	X	X	(対象外)
[11]	HCH 類			
	[11-1] $\alpha$ -HCH	↓	—	↓
	[11-2] $\beta$ -HCH	—	—	—
	[11-3] $\gamma$ -HCH(別名:リンデン)	—	┘	↓
	[11-4] $\delta$ -HCH	X	┘	—

(注1) 鳥類の平成25年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、平成24年度までの結果と継続性が  
ないため統計的な分析の対象外とした。

(注2) HCH 類の大気は、平成21年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を記載している。